

道心

編集 日光山 禅昌寺「道心」編集室
発行 平成14年10月15日
〒732-0002 広島市東区戸坂山根3-2-7
☎082-229-0618 zenshoji@bronze.ocn.ne.jp

生命を育む 子育てに悩む人は多い！

住職 横山 正賢



色々のお話を伺って、その原因が家庭に有ると考えられるものは、叱られ恐怖症・過干渉などと言われます。家庭外の学校等に原因があるものとして、いじめ・勉強について行けなくて起こる、無気力などです。

子供社会、だけの問題ではなく三十代前後の大人になっても出勤恐怖症・対人恐怖症・無気力症候群などと言った引きこもり現象が蔓延しつつあることを他人事と済ませられないように思います。

国民の大多数が貧しかった頃には、助け合いを思うと、豊かさとは何で有るかを考えさせられます。真剣に考えてみなければ日本の未来は無いと思つのは、私だけではないでしょう。

一方で食品表示の偽装・原子力発電所の安全管理義務違反・バブル経済を煽った銀行の経営責任・行政の怠慢や場当たりの政治の貧困などを生み出した根底には、多くの国民の「事なかれ主義」「傍観者の生き方」に起因するところが多いのではないかと思います。大人のこうした生き方が子育てにも影響を及ぼしているようにも考えさせられます。このような社会を作り出した私達にも、責任の一端が有るのではないのでしょうか。

仏教から学ぶ生命のいとなみと申しますと、自分一人の生命をいうのではなく、自然と共にある自分、社会と共にある自分

「これを生かされている生命」と申します。いま私が「生命を育む」と申します私の生命のいとなみとは、大自然のいとなみと、共に生かされている生命をいうのです。

私が真正面から出会った少年達の多くは遅く一生懸命生きております。

ある父親（四十四歳）の死は、長男高校一年生、長女中学二年生、次男小学校五年生の時、突然の死でありました。

また一人の父親（四十二歳）は、とても遅く健康な人でしたが、僅か二週間の煩いで急逝し、兄小学六年生、弟小学三年生、遺児となったこの少年達は父親の四十九日法要迄には、般若心経・修証義が私同様に読めるようにもなり、母子家庭となった悲哀は微塵もなく遅く生きる姿に、この「生命のいとなみ」は、彼等の何処に潜んでいたのかと、不思議を感じる程立派に成長され社会人として生きております。

彼ら五人中三人が結婚し子供を授かり今一生懸命に、子育てを模索している姿に潤いを感じます。逆境が本来の自己に目覚め、真実の愛の絆を強くし、思いやりの心を開眼し、生かされている真理に目覚めさせ、自分たちの努力で、いかなる困難をも乗り越える知恵と力を授かっていることを知り、自然の恵みと人々の巡り合わせる勝縁に感謝していることでしょう。

その生き様を模索し自信を持って我が子に示してくれることを祈っています。住職四十年の経験の中で、幼いとき私と出会って、仏事法要にこまめに参加し和尚との交わりの深い子供達に問題児はいなかったように思います。

近年子供が学校に行けないと言う話を良く耳にします。いわゆる「登校拒否」とか「不登校」とか言う言葉は、私などの子供時代には無かったように思います。全くなかったとは言えませんが、少なくとも社会問題になるほどの問題では無かったように思います。

小学校低学年から始まり中学高校生と、年々増える傾向にあり大きな社会問題となつていきます。困り果ててお寺へご相談にお越しになる方も多くあり、人ごとでは無いものを感じております。

「悲しみはあした花咲く」
第2話

「言葉には姿がある。 美しい心の人、 言葉も美しい。」

愛知専門尼僧堂堂頭 青山 俊董

この春さき、29歳のお嬢さんが一人で無量寺を訪ねてきました。ひどく落ち込み、悩んでいる様子なので、1時間ほど話を聞きました。

有名な金融会社に勤めているのですが、自分は太っているし、器量も悪いために、職場であからさまに差別されている、とそのお嬢さんは私に泣いて訴えるのです。

「入社した頃から、先輩の男性社員は可愛いコばかりをランチや夜のカラオケに誘って、私がそこに居合わせるとういでのように、君も良かったらくる？」って、刺身のつま扱いでした。

実務も可愛いコにはヤリテの男性社員が残業までして、手取り足取り教えて、そのコが仕事を少しでも覚えると、凄いいね！大したものだよ。って、大ゲサにホメまくって、お祝いの飲み会までするんです。くやしから私は独力で覚えて、夜は自費でOAスクールまで通って、誰よりも実務はできるのに、やっぱり重要な仕事に抜擢されるのは、可愛いコやスタイルのいいコばかり。

親や学校の先生やテレビなどに出ている文化人は、人間は姿かたちではない、心だ。って言いますが、そんなの嘘っぱちです。」

と訴え、そして真剣に、「仕事も中途半端で、結婚のチャンスもないまま、年だけとっていきます。私のような女はどうして生きていけばよいのですか」と問いかけてくるのです。

身長160センチくらいでしょうか。バストもお尻も健康的で私の見るかぎり、決しておデブさんでないし、聡明そうなたづらな瞳がとっても魅力的な人なのにす……。

自分の使っている言葉の姿を、いつも自分で見ている人間に

このお嬢さんに限らず、老いも若きも、みんな美しくなりたいと願っております。いつまでも若くありたいとも、願っております。しかし、どんなに願っても、時は逆戻りさせることも、とどめることもできません。

時は一瞬も休まず、私たちを老いへ、死へと運んでいきます。

そこにあつて私たちは、美しく生き、美しく老い、美しく死んでいきたいと願います。

それでは、本当に美しい人とは、どんな人でしょうか。

美しく生きるとは、どんな生き方なのでしょうか。

——名古屋から東京に向かう新幹線の車中で、2人の若い女性と隣合わせました。髪はちよつとだけ染めた栗色で、アクセサリーも控えめ。

なんとというブランドかわかりませんが、洋服もバッグもなかなか趣味のよいコーディネートのお2人さんでした。ところが列車が動き出したとたんに、ひとりの女性が空席の小テーブルをバターンと勢いよく広げて、

「飯食ってきた？弁当買ったよ」と言ったのです。「何買ったのオ？でも、しょうがないから食才食オ！」

びつくりぎょうてん。私は思わず2人の顔



をまじまじと見つめてしまいました。

おしゃれと言うと私たちは、すぐ服装や持ち物や化粧ことを考え、言葉のおしゃれということは、ほとんど忘れております。美しく着飾った淑女が汚い言葉を使ったら、せっかくの衣装も色あせて見えるものです。しかもこの言葉のおしゃれは、一夜漬けがまつたくききません。服装や持ち物や化粧は、お金さえあればすぐにでも間に合うのですが。

文芸評論家の古谷綱武さんは、

「言葉への愛を持ちたい」と言い、「自分の使っている言葉の姿を、いつも自分で見ている人間にならなければならない。」と語っておられます。言葉には姿があるのです。

食事についての、さっきの若い2人の言葉を考えてみましょう。「飯を食う」という言い方からは、野卑な響きが伝わってまいります。「飯を食べる」「お食事をする」などは無難な言い方ですが、「お食事をいたたく」となりますと、自分の生命のために犠牲になってく

れた食べ物たちへの無意識のうちにも手を合わせて感謝する思いが込められている——と、そんな感じがいたしませんか？

「食う」「食べる」「いたたく」と並べてみますと、なるほど、言葉に姿のあることがわかり、同時にそれはその言葉を使う人の、人柄の表現でもあることに気づきます。言葉ばかりではありません。声にも人柄が表れます。

ある日の新聞のコラムに、「声にも人柄が表れる」ということが書かれてありました。心に深くうなずくものを感じましたので、無量寺のお茶のお稽古が終わった後、このことを話題にいたしました。すると、電話の交換台に居る娘さんが、

「そうなんです。私どもは声を通して多くの人と接しております。その声からにじみ出るものが、とても優しく温かく、感じのいい方は直接お会いしても声から感じたお人柄とまったく同じなんです」と、即座に返してくれました。そして、

「反対にその声を聞いただけでなんとなく嫌な、厚かましい感じであったり、冷たかったり、威圧的だったりする方は、お会いしてみてもやはりその通りの方ですね。声は、声のよい悪いではなく、その声を出す人の人柄を隠しようもなく表します。私どもは声を道具としての勤めですので、とても恐ろしいと思っています」と。

ことばただ直しからぬは、彼はみめ貌よき人にあらず——
歌舞伎の世界には、「一声二顔三姿」とい

うジंकクスがあります。化粧と衣装と様式美で人の心を魅了するかに見える歌舞伎の世界で、第一に大切にするのが声であり、同時に言葉であるということは考えさせられることです。

一場の歌舞伎を美しくあたたかく、深みのあるものに仕上げる第一の要素が声であり、その声は、その声を出す人柄によって決まるとなると、昨日今日身に着けた演技ではなく、生涯に渡って培ってきた、その人の全人格に帰着するということになります。

人格は一日で教えていただいたり、1年や2年で育てていただくこともできません。毎日、毎日、それも長い年月をかけて育てあげていくのが、人格であり、言葉なのです。このことを私たちは、しっかりと肝に銘じて受けとめておきたいものです。

お釈迦様は『法句経』の中で、
ただ言説するわしとて
また容色うつくしとして
うちにねたみあり
心におしみ

ことば直しからぬは
彼は貌よき人にあらず
と、お説きになっておられます。

美しい心にはじめて容姿も言葉も美しく温かく、深いものとなりましょう。心と言葉のおしゃれを、真剣に考えたいものです。

※（本文は、青山俊重尼老師著
「悲しみはあした花咲く」光文社より
抜粋したものです。）

「まぼろしの里」

安佐南区 ペンネーム 夢楽（九五歳）

さまざまの

こと思い出す

ゆりの花

六十五年余り苦業を伴にした妻に先立たれ、生前彼女の大好きだった、白ゆりの花を仏前に供えながら、あの、厳しかった戦前、戦後の混乱の中を、必死で助け合って来た、さまざまな想いに浸っているうちに、早や三年近い月日が流れて、私も九十五才の峠を

越えました。そして、それまで目に見える現実の世界だけを重く見つけて来た私の人生観が、あの、目に見えない「心」の世界へと、少しづつ移って行くのを感じるようになって行きました。

童謡詩人、金子みすずさんの名を知ったのも、その作詩を読み始めたのもその頃からでした。童謡なので、私に読めない字も、判らない言葉も

なく、また、意味は私なりに感じとればよいものと、あまり拘っていませんので、とても気楽に読めました。そして、読んで行くうちに、今の私の気持ちに通じるような、いくつかの詩も見られ、それらの詩を読んでみると、何かしら気持ちや和んで来て、とても心が安らぐのです。

お花が散って実が熟れて、その実が落ちて葉が落ちて、それから芽が出て花が咲く、そうして何べんまわつたら、この木は御用がすむかしら。私はこの詩を読んで思わず「ハッ」と胸を打たれました。

そして私も、今までこの木と同じことをくり返していたのだと、気付かされたのです。私はこれまで、あの、美しい日本の四季のさまざまな移り変りに、九十五回もめぐり合ってきたのです。あと何べん廻つたら私のこの世の勤めは終わるのだろう。想いは同じです。でも、私は今あの目に見えない心の世界へと旅立つたばかりです。まだ何も判っていないのです。だから、今ここで止まることは出来ません。これから、もっと、もっといろいろなことを学び、色々なことを知らなければなら

ないのです。そして、この目に見える世界と、あの目に見えない世界が、一つに溶け合って作り出されるであろう、あの素晴らしい、あの輝かしい理想郷に行きつくまであと、二十ぺんでも、三十ぺんでも廻りつづけたいと希っているのです。でも、それは、まぼろしなのでせうか？

目に見えぬ

まことの道よ 何処ぞと、歩みはつづく

九十五の旅

平成十四年九月五日

「何か残さん」

禅昌寺 監寺 横山宗賢

「暑さ寒さも彼岸まで」と申しますが、秋分の日を過ぎてても、今年猛暑の余韻が続いているように感じておりました。やはり地球温暖化の影響でし

実際の寺では、五月に咲くフジの花が八月上旬にも咲き、さらに六月に咲くアヤマメが九月上旬と彼岸明けにも二度咲いておりました。師匠と二人で「自然界のバランスもおかしくなってきたのでは？」と、そう言う会話をしたほどでした。

先日、新聞に南極大陸の「棚氷の崩壊」の記事が載って

おりました。簡単に説明しますと、棚氷とは陸地を覆っている氷が自らの重みで押し出されて海上に張り出し、氷板となって浮いているもので、南極には「ラルセン棚氷」という大規模な棚氷があり、それが、ここ数年で急激に崩壊している。研究機関が、世界各国で海面の急上昇による災害や生態系の打撃を警告している。という内容でしたが、気になるところで宮島の厳島神社の回廊が、今年になって十回も高潮で冠水しているとのこと。断定は出来ないもの

の、地球温暖化などが原因として指摘されているそうです。もしかしら、そんなに遠くない将来、世界遺産の厳島神社が拝観出来なくなるなんて考え過ぎかもしれませんが、私たちにとって人ごとではなくて来ているように思いました。

私たちの日常生活は、自動車・エアコン・冷蔵庫・携帯電話・インターネット・電化住宅等々、ちよつと考えただけでもここ数年で、便利・快適に欠かせないものがたくさん出来ました。さらに、この便利・快適にはすべてエネルギーが必要とされ、エネルギー（化石燃料）を消費する度に、地球温暖化ガス、特に二酸化炭素(CO₂)が排出されることは周知の通りです。では、「地球温暖化防止のためにエネルギーを消費しない生活をしましよ」といつて今更、便利・快適生活を手放せませうでしょうか。答えは皆さんそれぞれにあると思いますが、大切なことは、地球環境云々ではなく、今の私たちの生き方が、未来にどう結びついて行くのかと云うことではないでしょうか。

最近私は、自転車を購入いたしました。それは健康のこともありますが、普段から公道を使用することが多く、それに乗じて、ちよつとした買い物でもすべて車でした。そんな時、難しく考えずに自分が何か地球にやさしいことを考えたら、単純ですが、プライベートでは極力自転車を

利用することを思つたのです。皆さんも、難しく考えずに例えば、"いつもよりコマ目に電気を消す"とか単純にご自身が出来ることから始めてみてはいかがですか？少しでも一人一人が未来のこと考えて行けば、それが大きな輪になつて、何かすばらしいものが未来に残してあげられるよう

に思います。古来より日本には四季があり、四季折々の花があり、匂いがあり、風景があります。やはり、フジは五月、アヤマは六月というように四季それぞれを味わいたい、また、四季の味わいを子や孫に残したいと思われませんか？皆さんご存知の江戸時代の

禅僧良寛さんは、生涯自分の住職する寺も持たず、一生を托鉢僧として終えられました。その良寛さんの辞世に
形見とて 何か残さん
春は花
山ほととぎす
秋はもみぢ葉
という歌があります。財産も何もない良寛さんが"もし、

何か形見というものを残せるならば"と思つた時、"この自然の美しさに勝るものはないではないか"、という気持ちが伝わつて参ります。私たちは未来に対して、この日本の四季、折々の自然の風景を残してあげることが大きな責任のように感じます。 合掌

「歯無しにならない話」

安佐北区 坂本頼子

今年も年一回の歯科健診を終えた。すぐ来年の日時を決めるところがすごいと思う。一年先の健診日を目標に、また一年を過ごすと言うのもすつかり習慣になつた。

「五五二五、八〇二〇。」

ゴーゴーニイゴー、

ハチマルニイマル。

お分かりの方もあると思う。五五歳で二五本の、八十歳で二十本の自分の歯を保とうというキャンペーンのキャッチフレーズだ。五五歳から八十歳迄の間がないと励みにならないやと言つたら、自分でこ

しられればいいじゃないと家の者に言われた。なる程、そこで五五二五の次を六〇二五、六五二五と来て、現在七〇二五を目指しているところ。元々、左右両八重歯を矯正し、十代の頃に上下四本の健康な歯を抜いているので、五五二五どころか五十年前から二十八本。もう一本も失うわけにはいかないのである。八重歯の矯正は犬歯を抜くわけにいかないから、隣の小白歯を抜いて犬歯が歯列に納まるようワイヤーの固定具をはめて過ごすもので、上を抜

けば対応して下も抜かねばならないのか、四本失つたというわけ。医療の進歩は目覚しいから、現在ではもっと別のやり方があるのだからと思う。歯科医A先生との出会いは何年前になるだろう。出来る限り「抜かない」が基本方針でその勉強？を患者もしなくてはならない。いきなり厚さ五、六センチもあろうかと思われる医学書を渡され、次の治療日迄に読むようにとのことで戸惑つてしまった。

わたしはその頃もう頸椎老化で、重い物が持てなくなり始めていたので、肩や顔に負担のかからないよう留意しながら持ち帰った。一週間先の予約日迄に読破するつたつて！そこで学生時代の独特の臭覚が蘇り、この本の言わんとすることは何か、先生が読

み取つて欲しいと思われているのはどこどこかポイント絞りに成功。本をお返しすることが出来た。A先生が一对一で講義？下さつた「歯無しにならない為の五ヶ条」はポイント絞りで読み解いた事柄と一致して嬉しかった。

- 一、よく噛む(最終目標一口五十回)
- 二、バランスよく食べる
- 三、正しくブラッシングする
- 四、適度な運動と複式呼吸を心がける
- 五、睡眠が大切(ストレスをためない)

どの項目もごく当たり前の事柄ばかりで易しそうだが続けるのは難しい。まさに自分の意思との闘いでもある。そして、ブラッシングの仕方を教わつた。歯磨き剤は殆どつけない。ペンホルダーで力を入

◆道心・趣味の会◆

短歌

●にぎやかに鳴きはじめたる虫の声

今宵の秋はここに定まる

●うつせみの命を蟬は鳴き継ぎて

一夏を足らず秋を揚揚ようよう

東区 矢野淑子

●公園のベンチで寝ているお爺さん

幸せですか木洩れ陽は秋

●大任を果たせし夫は少し酔い

問わず語りを夜更けまでする

中区 木原美代子

俳句

●高階に鳴く鈴虫の地を知らず

●かなかな湯疲れと言ふよき疲れ

東区 河野貞女

●本堂に 追われて入るや 蟬時雨

●柿の実に 日輪預け 郷の暮れ

東区 岡村竹畔

●名月にハーブの調べ 身に染みる

禅峰

◆行事報告◆(七月～九月)

●七月二十八日に行われたお盆前清掃では、五十五名の方がご奉仕くださいました。ご協力有難うございました。

●八月六日の孟蘭盆会法要には、多数の方が参拝。
●九月七日の石鎚山登山では二二名の方が参加。
●九月三十日の青山俊董尼老師講演会では六十三名が参加。



9月7日石鎚山登山

◆行事案内◆(十一月～正月)

●毎週定例行事

◆坐禅会

●暁天坐禅会 月曜日～金曜日

毎朝六時より四十分まで

●水曜坐禅会 午後七時より坐禅・茶

話会 終了八時半

●婦人坐禅会 毎週金曜日午後一時よ

り坐禅・茶話会 終了三時

お友達を誘い合わせの上、ご参加く

ださい。

●毎月定例行事

◆上田宗箇流茶道稽古日

毎月一回 水曜日

十一月六日・十二月四日・来年二

月十三日・三月十三日を予定

※お抹茶と和菓子を気軽に楽しむ

つもりでご参加ください。

◆御詠歌の会

第二金曜日 午前十時より自主練習

第四金曜日 午前九時より講師を

招いて練習 昼まで

◆日曜坐禅会

第一日曜日 午前九時より坐禅・

茶話会 終了十一時

●毎年定例行事

●臘八摂心坐禅会

十二月一日～八日(朝まで)

午前六時より一炷・午後七時より

二炷(年内の坐禅会は八日の摂心

終了をもってお休みます。)

●新春坐禅会

平成十五年元旦 午前八時より

●新年のご祈禱法要

平成十五年元旦 午前十時より

十二時まで

檀信徒皆様の一年のご無事を祈願

する法要です。お参りされた方に

お札を差し上げます。(古いお札

をご持参ください。)

※お寺の寺務は正月五日より通常に

戻ります。

●恒例行事

●年末大掃除のご案内

十二月十五日(日曜日)

午後一時から三時位まで

終了後茶話会

一年のアカを落すつもりで「ご家族

と一緒に参加ください。

【禅昌寺通信「道心」第六号の訂正とお詫び】

去る七月十五日に発行いたしました、禅

昌寺通信「道心」第六号の八頁、短歌の

一部に誤りがございましたので、訂正い

たします。

訂正前

・死に近き老いたる母は横たうる

息そくそくを蚕の眠り

※「そくそくを」ではなく「そくそくと

の誤りでした。

訂正後

・死に近き老いたる母は横たうる

息そくそくと蚕の眠り

作者の矢野淑子様、並びに読者の皆様

に大変ご迷惑をお掛け致しました。謹ん

で、お詫び申し上げます。

原稿募集

皆様の随筆、旅行記、体験談、趣味の短歌俳句など何でもけっこうです。お寄せ下さい。次号原稿締切は十二月末日にお願いいたします。